

# 開会、開会あいさつ

実行委員 野元 龍二（鹿児島県生活協同組合連合会 専務理事）

皆さま、こんにちは。ただいまより第2回みんながつくる「地域包括ケア」学習交流会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます実行委員会事務局で鹿児島県生協連専務理事の野元でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本来ならば実行委員長の純心女子大学の八田先生がご挨拶申し上げるところですけれども、今日は先生にはこの後、講演がございますので、私より一言ご挨拶を申し上げます。

本日お集まりの皆様におかれましては、大変お忙しい中、県内各地より朝早くからご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

また、本日は、ご来賓として鹿児島県保健福祉部地域包括ケア対策監の渡邊和代様にお越しいただいております。お忙しい中、ありがとうございます。

本日の学習交流会は、当初、200名の定員でご案内を差し上げておりましたが、参加の希望が非常に多く、最終的には400名近い方のお申し込みをいただきました。地域包括ケアへの関心が非常に高いということがわかりました。また、それぞれの立場で非常にご苦労なさっている、そういったあらわれが多く参加申し込みにつながったのではないとも思うことでした。そういったことから、一人でも多くの方々にご参加いただきたいということになり、会場は限られたスペースですので机を入れずに椅子席のみで、皆様にご迷惑をかけることになりましたことをまずはおわびを申し上げ、ご了解いただき

たいと思います。

さて、75歳以上の高齢者が急増する2025年に向けて、高齢者ができる限り住みなれた地域で暮らしていけるように、医療、介護、介護予防、それから住まい、生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムの充実・強化が急がれているわけでございます。このために、本日は、地域で介護、医療等を担う関係者の諸団体をはじめ、多様な主体による多様な取り組みをつくり上げていこうとする関係者の幅広い参画をいただきまして、昨年度に引き続きまして実行委員会で企画を立ててまいりました。

昨年度は美作大学の小坂田先生にご講演いただき、また、曾於市の行政、社協、それから事業者の一体となった地域づくりの取り組みをご報告いただきまして、非常に好評をいただいたところでございます。

今回、実行委員会で話し合ったテーマは、鹿児島という地域における住民主体の取り組みということにいたしました。その中で、生活支援を中心とした地域づくりについて考えたいということと、それから、地域の関係者のつながりをもっと強められないかという問題意識で企画をすすめてまいりました。

地域包括ケアシステムにつきましては、さまざまな関係者の協力のもとで、地域の主体性に基づいて、地域の特性に応じてつくり上げていくということが求められるわけです。

私ども生協連及び各生協の担当者としていたしましても、地域包括ケアの推進を大変重要な課題と捉えており取り組みをすすめてまいりたいと

考えているところでございます。この地域包括ケアの推進を重要な契機といたしまして、本日もご参集の皆様方と提携して、住民が安心して安全に暮らせる地域づくりを目指していきたいと考えているところです。

本日お集まりの皆様は、それぞれの立場で日々、知恵を絞りながらご苦労されておられるのではないかと思います。本日の学習会を少しでも皆様の参考にしていただければ幸いです。

以上、簡単ではございますけれども、実行委員会を代表いたしまして開会の挨拶にかえさせていただきます。本日は最後までどうぞよろしく願いたします。

さて、これから4点ほど事務連絡をさせていただきます。

まず、携帯電話についてです。携帯電話は、電源を切っていただくか、マナーモードに設定してくださるようお願いします。

2点目、本日の資料についてです。お配りしたのは、本冊子とアンケートの二つです。他に、ロビーには展示物がございますのでご自由にお持ちください。

3点目は、本日の学習交流会の報告集についてです。本日の全ての講演、報告、アンケートで寄せられた質問と回答は、後日、鹿児島県生協連のホームページにアップいたします。必要な方はダウンロードしてご活用ください。

最後4点目になります。本日の終了時間は、状況次第では少々延びることも予想されますので、あらかじめご了承ください。